

おらいの滝観洞

ひとが集い、やすらぎを感じる受付施設

滝観洞を取り囲む緑豊かな風景の中に
そっと身をあずけられるような
穏やかで大きな空間をつくります

小さな子どもからお年寄りまで
思い思いに時を過ごせるみんなの居場所をつくります

地場産の木材を積極的に使用することで、
町民の愛着を育み、町外へ発信できる
住田町の新たなシンボルとなることを目指します



室内のにぎわいを外からも感じられます



緑に囲まれただんだんテラスを進み、食堂へ向かいます

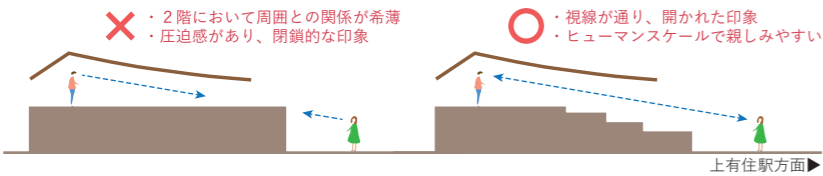


建築を介して南北の風景がつながります

周辺環境との連続性について [外観の意匠]

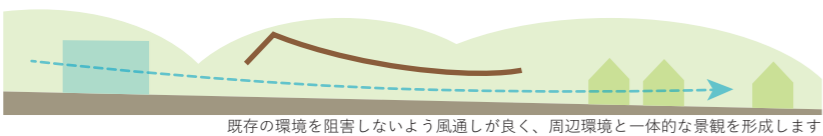
にぎわいが見え、親しみの持てる「開かれた建築」

上有住駅方面に向かって下がっていく階段状のボリュームとすることで、奥にある食堂や滝流し蕎麦体験スペースまで見通すことができます。死角が少ないため、安全・安心な運営が行いやすく、利用者の顔が見える施設となります。また、道路から見た際の圧迫感を軽減し、来訪者にとって親しみやすいスケールの建物となります。



来訪者を迎え入れる大きな屋根と 緑豊かな周辺環境が連続する住田町らしい外観計画

- ・屋根は、道路側を妻面とした勾配屋根とし、伝統的な妻入屋根の町屋の風景を彷彿とさせ、美しい山並みと調和する佇まいをつくります。また、住田町中心地の公共施設に見られる大庇を建物を長寿命化させる施設整備の共通言語と捉え、本計画でも可能な限り庇を設け、町の風景を有機的につなぎ、広域的な視点を持った建築を目指します。
- ・「だんだんテラス」は南側の緑豊かな山を背景に、建築および人々の活動が風景と連続し、住田町らしい自然と共存した憩いの場となるよう計画します。
- ・外壁には地元産の杉を用いた焼杉板張り等の採用を検討します。メンテナンス性がよく、風景に馴染む色合いであるとともに、製作過程において地元の方々に参加いただける素材を選択することで、建物への愛着が湧き、長く愛される建築となることを目指します。



既存の環境を阻害しないよう風通しが良く、周辺環境と一体的な景観を形成します



敷地を取り囲む山々と豊潤な緑



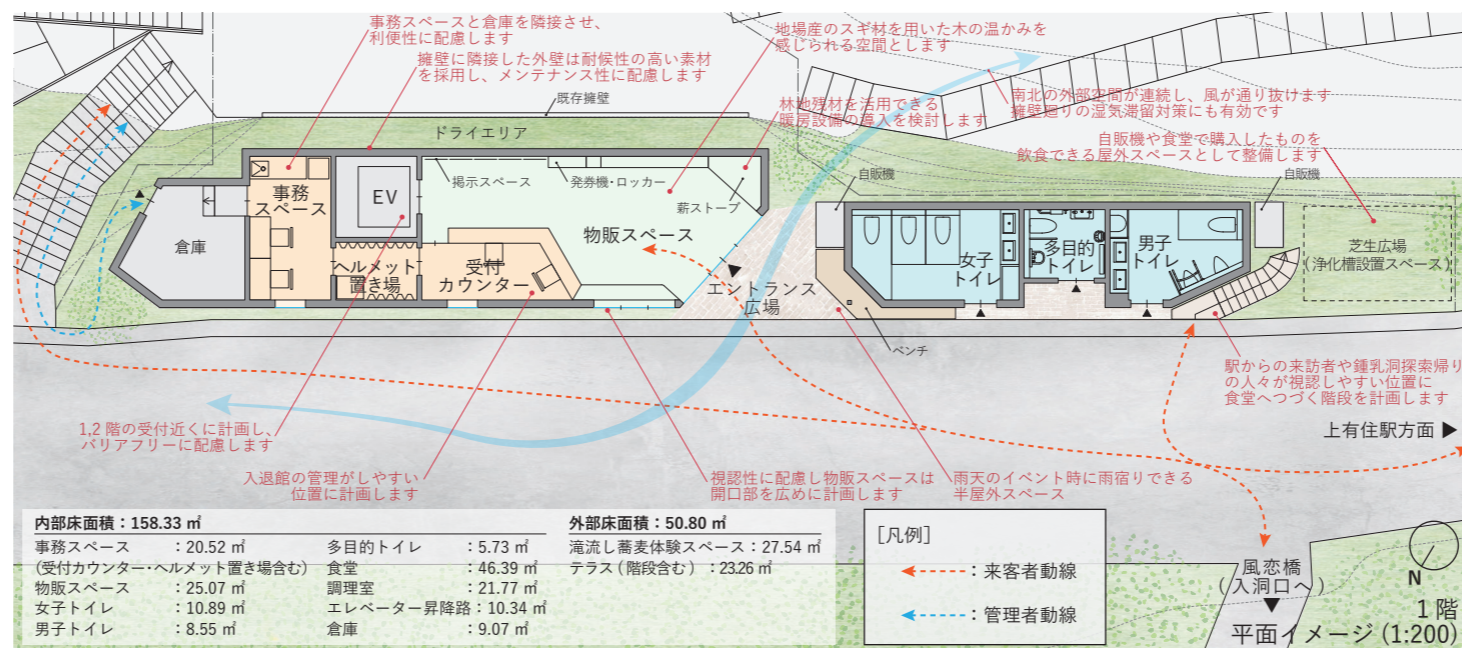
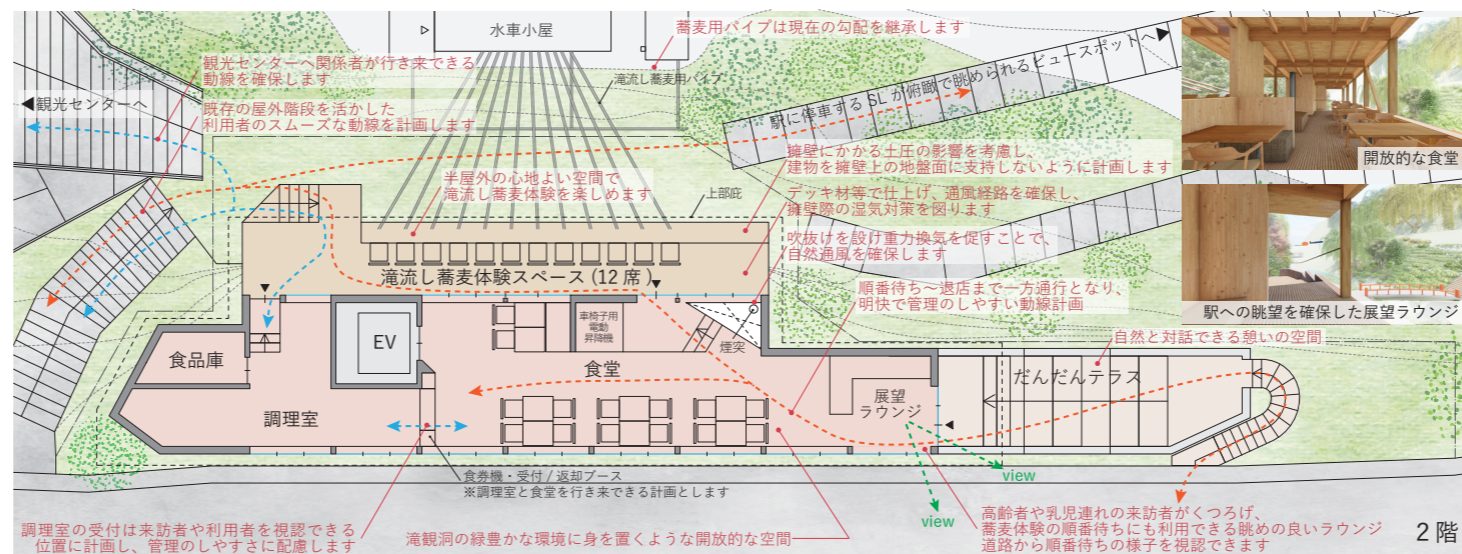
住田町役場と大船渡消防署住田分署



焼杉三角焼きワークショップのイメージ

諸室の配置について

明快な動線計画により誰もが利用しやすい平面計画



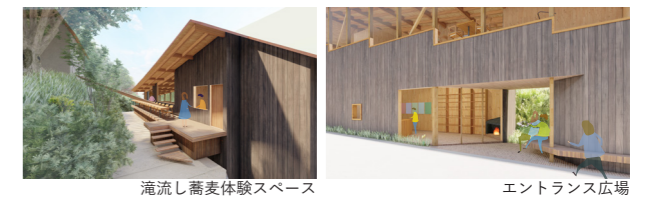
内部床面積：158.33㎡		外部床面積：50.80㎡	
事務スペース：20.52㎡	多目的トイレ：5.73㎡	滝流し蕎麦体験スペース：27.54㎡	テラス（階段含む）：23.26㎡
（受付カウンター・ヘルメット置き場含む）	食堂：46.39㎡		
物販スペース：25.07㎡	調理室：21.77㎡		
女子トイレ：10.89㎡	エレベーター昇降路：10.34㎡		
男子トイレ：8.55㎡	倉庫：9.07㎡		

周辺環境との連続性について [半屋外空間]

周辺施設と連続的に利用できる半屋外空間

[2階] 滝流し蕎麦体験スペースは、水車小屋との位置関係を考慮し、出来るだけ既存施設と同じ位置に設えます。体験スペースから屋外階段を伝って観光センターと相互に行き来できる計画とし、関係者動線を確保するとともに、蕎麦体験～退店までがスムーズな動線計画となるよう配慮します。

[1階] 「エントランス広場」は、ベンチと自販機を設け、雨天のイベント時の雨やどりや、一息つける憩いの場として設えます。敷地南側の外部空間と地続きに連続することで、風が通り抜け、自然光を享受できる快適な環境を創出します。



滝流し蕎麦体験スペース

エントランス広場

地域産業の振興について

地元の木材でつくる合理的な構造計画

- ・工事費を考慮し、在来軸組工法で計画します。壁面は構造用合板による耐力壁、開放的なガラス面には斜材を配置し、コストバランスに優れた合理的な構造計画とします。
- ・町内で生産できる材料を使用し、地域産業の活性化やCO₂を削減し、地域の森の整備に繋がります。120mmを超える梁せいは生産の調整が必要であるため、メインフレーム以外の梁は可能な限り4寸角の材を床、屋根の小梁として使用します。
- ・梁のスギ集成材は生産ラインの調整が難しい状況であればカラマツ集成材に変更することも可能です。
- ・擁壁のそばに立つ建築物であるため、基礎の立上りを高く設定し、脚元廻りの湿気対策を行うことで、建物の長寿命化を図ります。